

滋賀県立守山養護学校

教育後援会だより

これからの守山養護学校は？



教育後援会会長
武藤 敬助

守山養護学校は、現在の守山に移り県立小児保健医療センター内で養護学校として歩み始めて38年。創立としては67年の歴史をもっています。この間、県内外を問わず、年によっては海外からも入院治療に來られ、多くの児童生徒が守山養護学校に在籍されました。病弱教育の中心として現在も大きな役割を果たしています。

その中で、現在小児保健医療センターの統合に向けての取り組みが進められています。守山養護学校は、小児保健医療センターに入院される子どもたちの学校です。それだけに、今後の小児保健医療センターの動向を見守っていきたいと思います。そして入院された子どもたちが安心して学校教育を受けられる機関として、これからも果敢に取り組んでいかれることを期待しています。

さて、5月31日守山養護学校の運動会を見させていただきました。本当に久しぶりの運動会ででした。私の都合で見せていただく時間はわずかでしたが、子どもたちが先生方と共に、知恵と力を出し合って準備や本番の進行をされている姿は頼もしく感じました。病棟から出られない子どもたちの姿も種目の中で写真参加等で見ることができ

ました。家から離れての病院生活、自分の学校から離れての学校生活。寂しく辛いこともあるでしょうが、懸命に過ごされている姿は私たちにも元氣を与えてくれます。

守山養護学校は、小児保健医療センターとは運命共同体だと言っても過言ではありません。これからもより一層医療・教育の連携を大切に、子どもたちを支援してくださることを願います。教育後援会としても、微力ながら応援をしていきたいと思いますが、後援会に関わってくださっている皆様の更なるご理解とご協力をお願いいたします。

第 52 号 <令和6年7月発行>

滋賀県守山市守山五丁目6番20号
守山養護学校教育後援会

TEL: (077) 583-5857
FAX: (077) 583-7543



H P: <http://www.moriyama-sh.shiga-ec.ed.jp/>
※「守山養護学校 滋賀」と検索ください。

MAIL: moriyama-sh@pref-shiga.ed.jp

「病気とつきあいながら学ぶこどもの支援センター」
としての活動を開始しました。(2024年4月から)

相談専用電話 TEL: (077) 582-9154

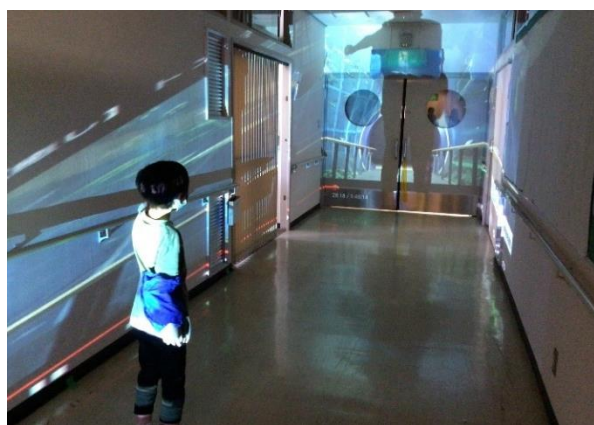
学校生活の様子

びわこタイム <5月10日(金)>

昨年度に引き続き、今年度も遠足の代替行事『びわこタイム』に取り組みました。今年も琵琶湖博物館から鳥のカービング(カイツブリ、マガモ、キンクロハジロ、カワウ、オンドリ、オオバンなど)、魚の模型(コイ、ワカサギ、ドジョウ、ホンモロコ、フナ、マス、おまけで鮒ずしなど)をお借りし、学校のプレイルームや廊下に展示しました。校舎内では、公式 YouTube から、琵琶湖博物館の水のトンネルや水槽の映像が廊下やホワイトボードに映し出され、学校はまさに琵琶湖博物館。さまざまな鳥の鳴き声や水の流れる音が聞こえる、日常とは異なる特別な雰囲気の中で、子どもたちは“びわこ”や“環境”について学ぶことができました。



<展示の様子>



午前中は、滋賀県地球温暖化防止活動推進センターの先生方に来校していただき、『ミッション!びわ湖の魚をすくえ!』『買い物ゲーム』の2つのグループに分かれて活動しました。

『ミッション!びわ湖の魚をすくえ!』では、魚釣りゲームを通して、固有種や外来種など、琵琶湖に生

息する魚のことや温暖化について学習しました。

『買い物ゲーム』では、さまざまな商品の中からどれを選ぶことが、エコにどのようにつながるのかを学習しました。生活の中で使用する様々な商品を実際に手に取って商品に示されている情報を読み取り、一人ひとりが“エコ”を意識しながら買い物に取り組むことができました。子どもたちそれぞれに新たな発見があり、環境にやさしい行動をしようという意識を高めることができました。



<買い物ゲーム>

午後からは琵琶湖博物館の『むかしのくらし』展示にちなんで、1日限定の駄菓子屋さんで買い物をしました。小学生は朝から駄菓子を心待ちにしていた、開店と同時に小遣い(模擬貨幣)を持って駄菓子屋さんへ!中学生は店員役を担い、レジを担当しました。駄菓子の購入費用については、本校教育後援会から活動補助費として援助をいただきました。たくさんの種類の中からじっくり吟味して選んだ駄菓子を、子どもたちは嬉しそうに食べていました。ありがとうございました。



<駄菓子屋さんの様子>

運動会 <5月31日(金)>

『最後まで ケガがないよう 楽しもう』

5月31日金曜日の2～4校時に、プレイルームで運動会を行いました。昨年に引き続き、感染症対策を徹底して、保護者の方にも参観していただけるようにしました。また、4年ぶりにたくさんの病院関係者の皆様や来賓の方も参観いただくことができました。温かい声援をいただき、子どもたちは、楽しく、賑やかに活動することができました。

今年も、5年生以上の児童生徒で構成する子ども実行委員会が、企画運営を担当しました。運動会当日までの約1か月の準備期間の間、スローガンやテーマソングを考えたり、当日の司会進行やプログラムの挿絵を書いたり、運動会を盛り上げるために取り組みました。

パワータイム種目は、『くす玉マトリョーシカ～ミラーボールビート～』でした。病院内で学習している児童生徒と、登校して学習して



<パワータイム種目>

いる児童生徒が、それぞれ図工や美術で作った折り染めの紙で装飾したくす玉を、ひもを引っ張って割りました。最初は、ひもを引っ張っても、引っ張っても、「あれれ、なかなか割れないぞ・・・」というハプニングもありましたが、プレイルームは声援と笑い声にあふれていました。友だちや先生たちの注目や、「よいしょ、よいしょ」という大きなかけ声を受けて、最後には練習の時と同じようにゆっくりとひもを引っ張り、見事くす玉を割ることができました。割れたくす玉からは大きなスカーフが出てきて、それを上下させて、優しい風を感じると、子どもたちの緊張した表情がずっと和らいでいきました。種目の最後に、プレイルームの照明を落とし、ミラーボールの光と色が

飛び交う中、大きなスカーフの優しい風を、会場のみんなで感じました。普段とは違う雰囲気に包まれて、子どもたちの声を出したり、表情をほころばせたりするなどのいろいろな姿がみられました。

スマイル種目は、『MORIYOU FLOOR CURLING』でした。フロアカーリングは、キャスター付きの木製のフロッカーを滑らせてターゲットを狙う氷上カーリング室内版です。



<スマイル種目>

会場の全員が呼吸を止めて静まりかえり、張り詰めた緊張感の中、スティック越しに送球の向きや力をフロッカーに伝えることは至難の業です。単純にターゲットを狙うのか、先を読んで相手を翻弄する位置を狙うのか、互いに戦略を練って、送球します。豪快なストレートショットに、戦略的なカーブなど、多彩なフロッカーの行方に、会場のみんながハラハラドキドキ。最後まで集中力を保って戦い抜いた両者に惜しみない拍手が送られました。

チャレンジ種目は、『ボールでつなぐ心の輪』で、玉転がし、つな引き、玉入れの3つの競技をリレーのようにつなぎ、



<チャレンジ種目>

ボールをたくさん集めていく種目に挑戦しました。3つの種目すべてで、何個のボールを集めることができるか、練習の時の高得点を目指します。中でも、つな引きは、会場全体がとても盛り上がりました。制限時間内に、全員が協力して順番にひもを引っ張り合って、かごにボールを1つずつ入れるつな引きでした。練習の初めは、ひもの引っ張り方やボールの投

げ方に苦戦していた子どもたちでしたが、友だちと声をかけ合ってタイミングを合わせたり、投げる向きを考えたりするなどの工夫をしながら練習した成果もあり、最後にはたくさんのボールを集めることができました。

全員種目は、『ボッチャですごく！～めざせ！びわこ1周！～』でした。手首を上手く使って、ターゲットマットの



<全員種目>

的にボールをピタッと止めたり、ランプを使って勢いよく転がしてペットボトルのピンを倒したり、思い思いに送球します。得点に応じて、「びわ湖すごろく」のコマを進めていき、みんなで協力して、びわ湖を1周しました。途中の『?マーク』に止まると、滋賀県の観光地や名所の写真や説明があり、「知ってるー!」「行ったことある」などの声もあがり、みんなで盛り上がりました。



<会場に掲げられたスローガン>

閉会式では、実行委員が「スローガンのように最後まで、けががなく、楽しめたと思います。たくさんの応援ありがとうございました。」とまとめました。一人ひとりが、自分の力を発揮して、運動会を盛り上げました。心に残る運動会になりました。また、閉会式では、教育後援会会員の皆様のご理解ご協力のもと、今年もグループごとに参加賞をいただきました。

パワータイムグループは、種目発表の中で使った『リトミックスカーフ』、スマイルグループは、楽しく刺繍ができる『フリースティッチング用のセット』、そして、チャレンジグループはリモコン操作で動き、ダンスをしたり、英語で声も出したりする『ロボット』をいただきました。

ロボットは、小学生の児童が休み時間に遊ぶだけでなく、自分たちが模造紙に書いてつくった街の中を指示通りにロボットを動かすプログラムを作る活動など、楽しみながらプログラミングについて学習する授業にも活用させていただきます。



～総会事務局より～

4月26日(金)に開催を予定していましたが令和6年度教育後援会総会は、今年度も感染拡大予防のため、中止とさせていただきます。

出席を予定していただいております会員の皆様には、ご迷惑をおかけしたことをお詫び申し上げます。

総会中止に伴い、書面にて令和5年度活動報告と会計報告、6年度役員・事業計画・予算の承認をいただく形になりました。お忙しい中、会員の皆様にご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。

～編集後記～

会員の皆様のご支援、ご協力のおかげで第52号を発行することができましたこと、厚くお礼申し上げます。本校に転入する子どもたちの数は減少の傾向にありますが、入院中の子どもたち一人ひとりの学校生活の充実のため、本会の活動を更に進めていきたいと考えておりますので、会員の皆様には、今後も引き続き、ご支援ご協力のほどよろしくお願いいたします。